

実践報告

溝部京子（大分県別府市小学校教諭）

12月24日の教育部会では、わたしがハンセン病に出会ったことからこれまで5年間の実践のおおまかな報告と「湯の街べっぷをハンセン病回復者の第二のふるさとへ」実行委員会の取り組みについて報告しました。教育実践については、市民学会のホームページの発信塔にも寄稿しているので、ここでは私がハンセン病の問題に取り組むようになって出会った保護者の方々との交流について報告します。

「ハンセン病問題に出会い、保護者とながり、そして少し強くなれたかな」

わたしは、2002年3月に菊池恵楓園の阿部智子さんと出会いました。そのころのわたしは、自分に自信がなく1年1年をやっと過ごしていました。ハンセン病の問題を子どもたちに伝えたいと思うようになって紙芝居を作り学級通信で思いを語り授業をしていきました。あのころは無我夢中で自分の熱い思いを子どもにも保護者の方にも思いっきりぶつけていたように思います。それででしょうか、子どもたちも紙芝居に興味をもって来て、2学期からの教室は紙芝居の主人公「ありんちゃん」に染まりました。子どもたちもありんちゃんを主人公にして紙芝居をつくるようになり、ありんちゃんの歌を作って歌ったり絵を描いて貼ったして思いつくことを次々にしていきました。保護者の方も連絡帳やお手紙でこのような心の教育をしてくれることに感謝しているということ伝えてくれました。またハンセン病について自分自身も考えていきたいといっしょに「アリとゾウ」の絵本を子どもに読み聞かせしてくれたりしました。人権教育の必要性を強く感じている方もいて「ありんちゃんと森のどうぶつたち」の紙芝居を作るときには、文章の中身に悩んでいるとうちあけたところ、いっしょに作りましょうと言って来て、メールでのやり取りがしばらく続きました。そのときのお母さんたちとは今でも気持ちがつながっています。

たかしさん（仮名）やお母さんとの出会い

その学年のとき、わたしが深くかかわったたかしさんという子どもがいます。たかしさんについてはおうちの方とも毎日のように連絡帳を交換して指導方法を模索していました。たかしさんのお母さんも子育てに悩んでいましたから、お互いに正直な思いを語りました。そのときの縁で今もお母さんとは、障がいをもつ親の会をいっしょに続けています。たかしさんが、ありんちゃんに興味を持ってくれたこともあり、その後毎年開いたハンセン病回復者の宮里さんのコンサートには親子でいつも参加してくれます。またステージに上がりいっしょに歌ったりしました。担任を外れてからも、たかしさんから、次の紙芝居ができれば見せてほしいと言われて、わたしが転勤して学校が変わっても次の紙芝居を届けたりしました。あれから4年以上たっていますが、いまだにハンセン病のことを話題にしています。お母さんは「湯の街べっぷをハンセン病回復者の第二のふるさとへ」実行委員会にも入ってくれていっしょに活動もしました。たかしさんはわたしのホームページをときどき見ていてくれて、今はもう6年生になっているので、書き込みもしてくれるようになりました。小さなときにハンセン病に出会ってもずっと考え続けてくれた親子です。わたしが活動を続ける支えになった親子です。

たかしさんの書き込み 2006年11月

ぼくは、きょうこ先生から1、2年生の時に、受け持たれた生徒です。今6年生です。最初にありとぞうの紙芝居をよんでもらったり、しんちゃんと一緒に給食を食べました。また、しんちゃんやきょうこ先生に、会いたいです。僕も卒業まで頑張るので、きょうこ先生も頑張ってください。また、道しるべにお手伝いに行きます。

和田さん（仮名）との出会い

和田さんとは4年生のお子さんを担任したときに出会いました。そのときはゲストとして阿部智子さんを学校に招いて交流した年度です。和田さんもハンセン病の問題に関心を持って来てお手紙を交換したり実際に会って話したりしながら仲良くなりました。阿部さんを招いたときは、ぜひ自分も阿部さんに会いたいということでいっしょに交流しました。自らのつらい体験も語ってくれて深くつながりました。それ以後ずっと担任を外れてもハンセン病のこと人権のこと阿部さんのことなど話しています。昨年は下のお子さんの担任をする機会もあり、ハンセン病問題に限らず、障害者作業所との交流もずっと応援してくれています。地域にある作業所を学校の子どもたちや保護者に知ってほしいという願いを受け止めてくれてPTAとしても交流会を開いてくれたりしました。会うたびにお互いの思いを熱く語れる仲間になりました。

他にも、ハンセン病の問題をやっている先生なら、人のために一生懸命やっている先生ならきっと思いをわかってくれると思うと言って、自分のつらい体験を語ってくれるお母さんもいました。ハンセン病の学習を広めてほしいと懇談会で発言してくれたこともあります。菊池恵楓園にいっしょに行って交流したときは、子育てに悩んでいるけれども園にいたときだけは心が癒されたと話してくれました。その後もまた恵楓園に行くときは声をかけてくださいと言ってくれます。他にもハンセン病のことで何かお手伝いができるなら言ってくださいと声をかけてくれるお母さんはたくさんいます。そんなお母さんたちとのつながりが、わたしを少し強くしてくれたかなと思います。